



川上 正舒
(かわかみ・まさのぶ)

1946 (昭和21)年9月1日東京都世田谷区生まれ。東京教育大学附属高等学校 (現在の筑波大学附属高等学校) から東京大学理科Ⅲ類に進学, 1973 (昭和48)年, 東京大学医学部医学科を卒業した。在学中は東大闘争のさなかにあったが, 特に医学部進学後は学内正常化までをヨット部での活動などに費やしたという。臨床研修後, 第三内科に入局, 内分泌領域に所属してホルモンの測定と抗体作製に明け暮れる日々から研究生活をスタートさせた。まもなくコロンビア大学のコレステロール研究で有名な DeWitt Goodman の研究室に留学, 動脈硬化疾患が急増する米国で脂質代謝研究に着手した。与えられた研究は必ずしも脂質代謝の主流といえるものではなかったが, このときの経験が, その後, ロックフェラー大学の Anthony Cerami の研究室に移籍, さらにジョンズ・ホプキンス大学に国内留学して取り組んだ感染症と脂質代謝異常の関連において花開くことになった。のちにTNF (腫瘍壊死因子) と同一物質であると判明した成分「カケクチン」の発見は, サイトカインの存在もあまり知られていない時代に先駆けた画期的新発見であった。帰国後は国立病院医療センター臨床研究部の病態生理研究室室長を務めた後, 平成元(1989)年, 新設の自治医科大学附属大宮医療センター (現在の自治医科大学附属さいたま医療センター) に招かれ, 助教授, 教授, 副センター長, その後はセンター長として, 今日の国内有数の優良施設への発展に寄与した。2011年(平成23年)日本糖尿病合併症学会会長, 2012 (平成24)年, 第30回日本肥満症治療学会会長。自治医大退職後は, 同大学OBで組織された「公益社団法人地域医療振興協会」運営の練馬光が丘病院の病院長に就任。長年のキャリアに裏付けられた豊富な知識と経験を活かし, 超高齢社会における地域医療への貢献を胸に今日も汗を流している。現在, 自治医科大学医学部名誉教授。



聞き手

野田 光彦

埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科 教授